令和８年度　学校評価結果について

専修大学松戸中学校・高等学校

本校では、生徒がより良い学校生活が送れるように、また学校運営の改善と発展を目指すため、「学校評価」の一環として、「生徒を対象とした授業評価アンケート」を実施致しています。

令和８年度の授業評価アンケートの集計結果につきましては、中学生及び高校生全員を対象に下記のように実施致しました。

集計結果につきましては、中学・高校別に座学科目及び座学以外科目ごとに、各質問項目に対する評価平均点と併せて学年及び教科毎の総合評価点を令和 3 年度からの結果と併せてグラフで図示致しました。

本校においては、これらの授業評価アンケートの評価結果を真筆に受け止め、授業の改善含めてより良い学校づくりに向けて改善に取り組んで行く所存です。

さらに、今後とも学校としての自己点検・評価及び学校関係者評価の方法等含めて学校評価の方法について、さらに精査を図り教育内容の改善に取り組んでいく所存です。

なお、中学生及び高校生の卒業生・保護者を対象と致しました「学校評価アンケート」につきましては、12 月～3 月の期間に実施予定でありますので、実施終了後に改めて報告させて戴きます。

生徒による授業評価アンケート内容

① 実施対象者：中学生（452 名）及び高校生（1,286 名）の全員

② 実施日：中学生（令和８年７月 14 日（火）～16 日（木））
　　高校生（令和８年７月 11 日（土））

③実施科目：各クラスで履修している全科目
　・座学科目　　中学・高校：英語・理科・地歴公民・数学・国語
　・座学以外科目　中学：芸術・技術家庭・保健体育・英会話。書写・理科実験
　　高校：芸術・保健体育・情報

④評価項目：座学科目（15 項目：授業への取組関係４項目、授業内容・方法関係 10 項目、総合評価１項目）
　　座学以外科目（13 項目：授業への取組関係２項目、授業内容・方法関係 10 項目、総合評価１項目）

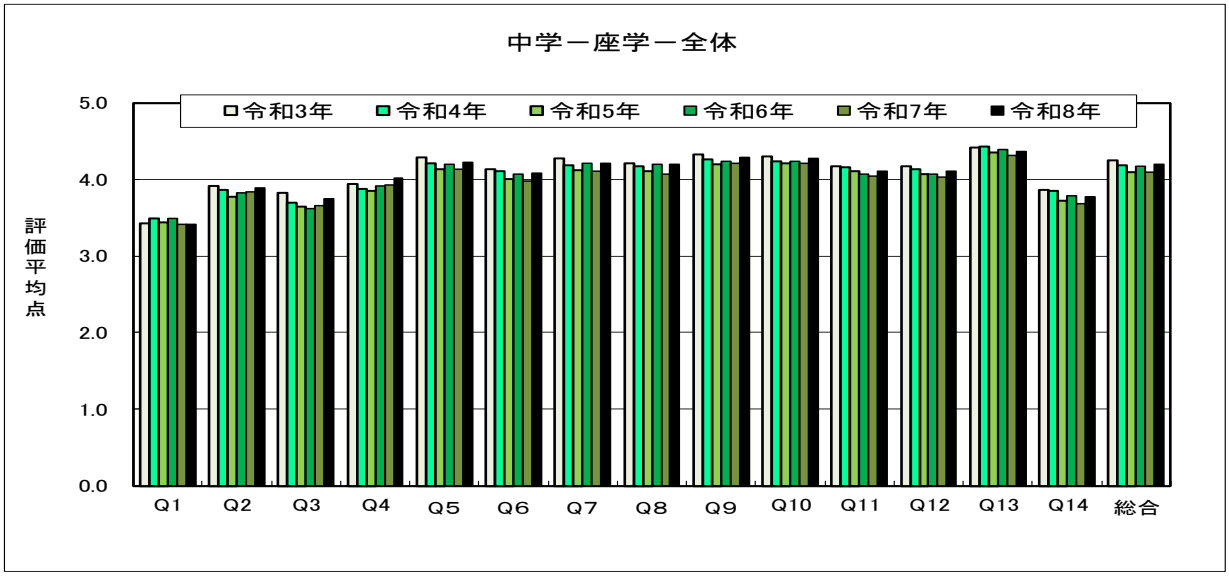
⑤集計結果：全教員 156 名（時間講師含む）に担当科目、担当クラス毎及び該当科目全体の評価結果を提示するとともに、評価結果に対する所見及び今後の改善策等について書面にて提出

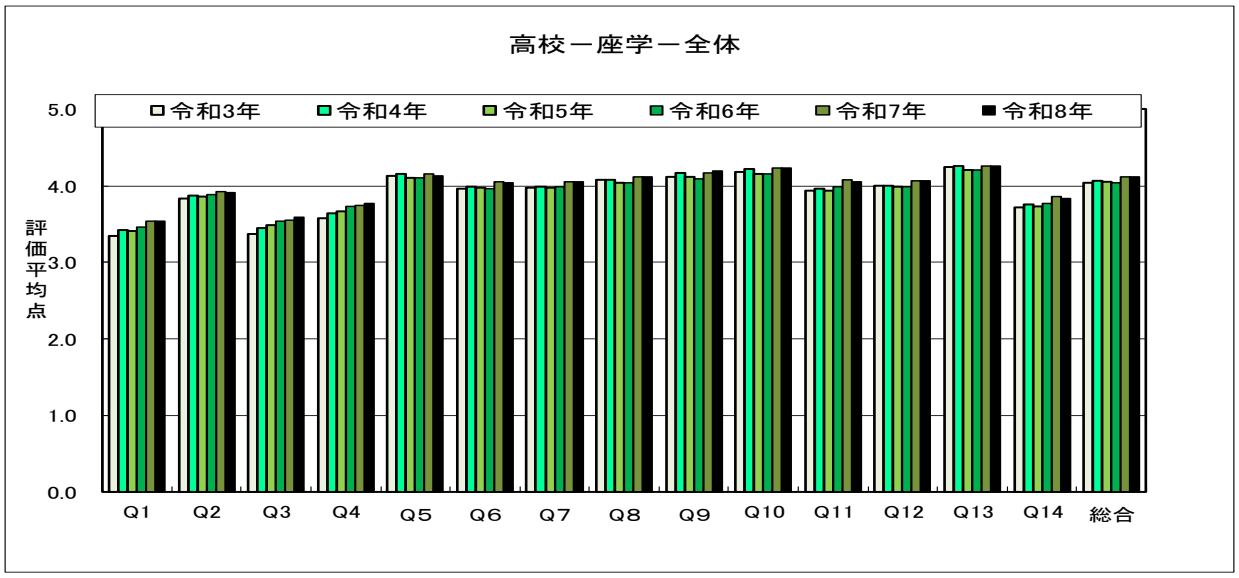
以上

令和3-4-5-6-7-8年度
座学科目全体に対するアンケート結果

座学科目に対する質問項目

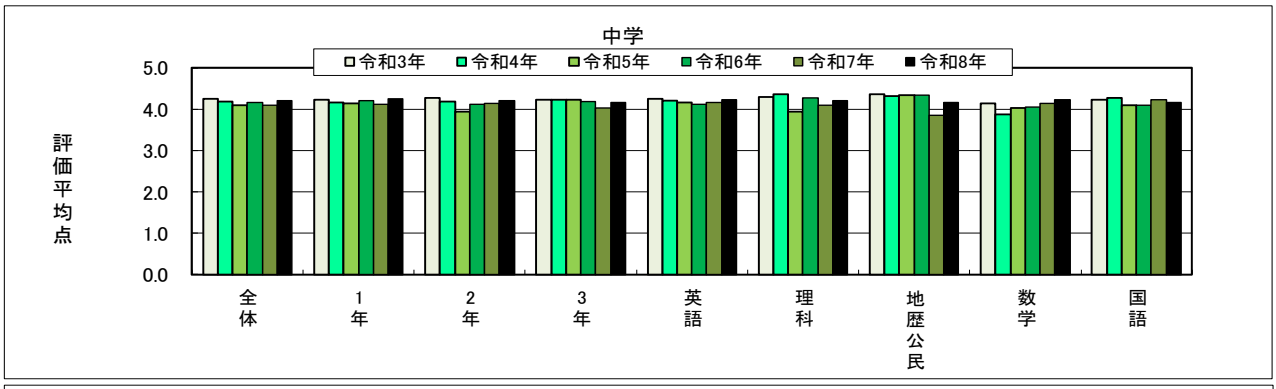
質問項目		
授業への取組	Q1	この科目は、自分は得意(好き)だと思う。
	Q2	この科目の授業に積極的に参加した。
	Q3	この科目の予習や復習(宿題を含む)をしている。
	Q4	この科目の定期考査に向けてしっかり勉強した。
授業内容・方法	Q5	話し方は、明瞭で聞き取りやすかった。
	Q6	授業の内容はよく理解できた。
	Q7	板書が適切で分かりやすかった。
	Q8	プリント・実験などさまざまな授業の工夫をしてくれ、理解に役立った。
	Q9	生徒の質問に良く答えてくれた。
	Q10	授業は十分な準備と熱意を持って行われた。
	Q11	授業に支障を与えるような生徒の言動に対して適切な注意を与えていた。
	Q12	授業は生徒の理解を見て進められ、進度は適切であった。
	Q13	定期考査の内容は、授業内容に沿っている。
	Q14	この授業を通じ、この科目に対する興味・関心が高まっている。
総合		総合的に見て充実した授業だった。

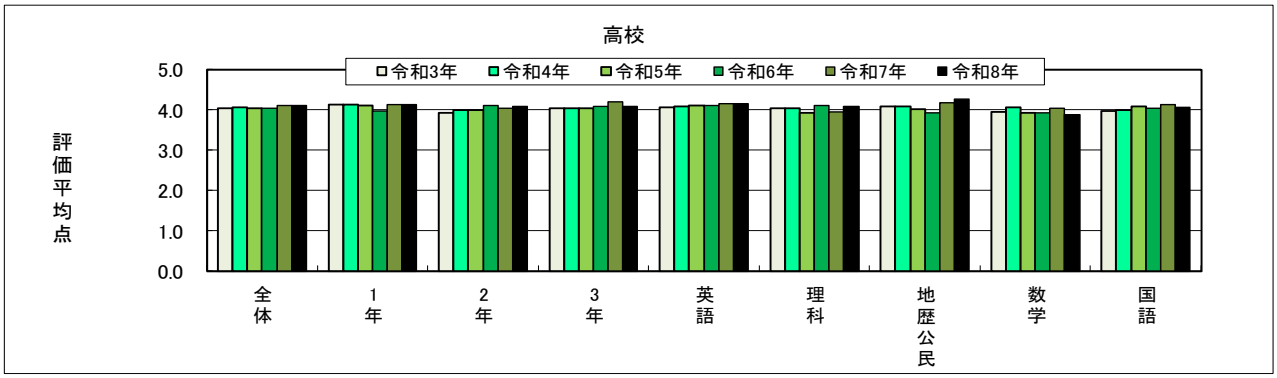




令和3-4-5-6-7-8年度
座学科目全体に対するアンケート結果

座学科目（全体、1年、2年、3年、英語・理科・地歴公民・数学・国語）





座学科目に対する授業評価アンケートは、前頁の質問項目に示されているように授業への取組み関係 4 項目、授業内容・方法関係 10 項目及び総合評価、併せて 15 項目で行った。また、各評価項目に対する評価は、5 段階評価（強くそう思う：5、そう思う：4、どちらとも言えない：3、そう思わない：2、まったくそう思わない：1）により行った。アンケートは過去 6 年間の結果も併せて図示した。

前頁には、座学科目全体に対する中学・高校別に、各評価項目の結果を評価平均点で図示した。中学及び高校ともに、Q1「この科目は、自分は得意だと思う」等の授業への取組みに関する評価は大きな変化は見られない。総合評価項目としての「総合的に見て充実した授業だった」に対する評価は、中学で 4.20（昨年 4.25）、高校で 4.11（昨年 4.04）の値であることから、中学高校ともに大部分の生徒がそれぞれ授業に満足している結果が窺える。

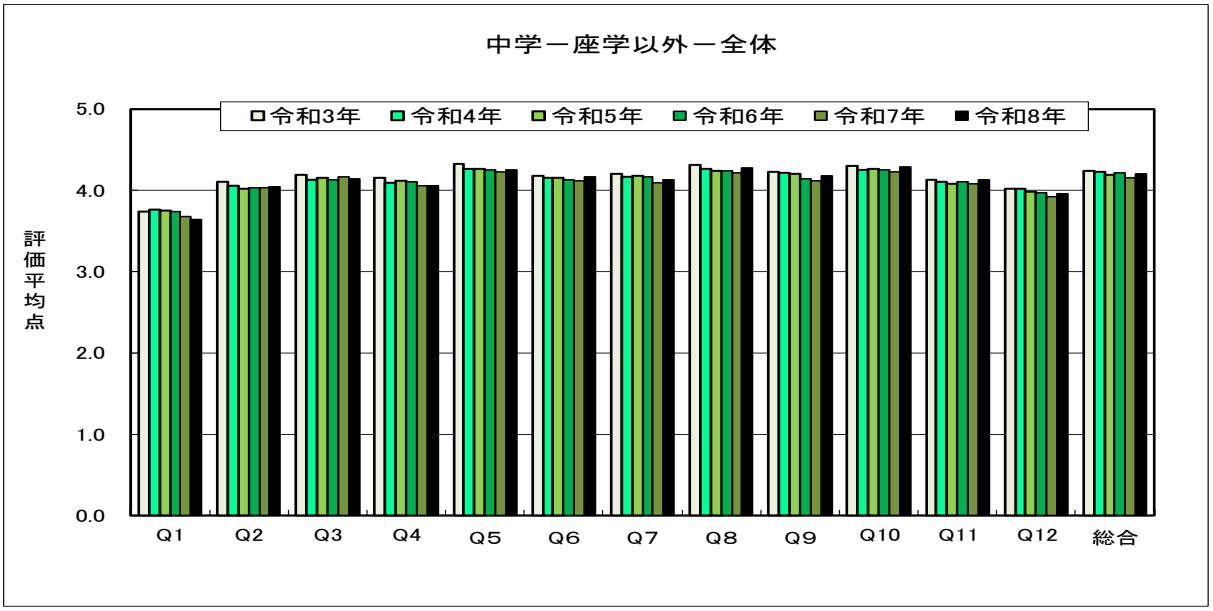
総合評価項目としての「総合的に見て充実した授業だった」に対する全体、学年及び科目毎に、過去 6 年間との結果と比較すると、中学及び高校とも評価平均点に大きな変化はない。中学を学年別で見たとき、座学科目では 1 年（4.26）が 2 年（4.20）及び 3 年（4.16）より高くなっており、また、教科別で見ると数学(4.24)、英語（4.23）が全体の評価点（4.20）より上回っている。

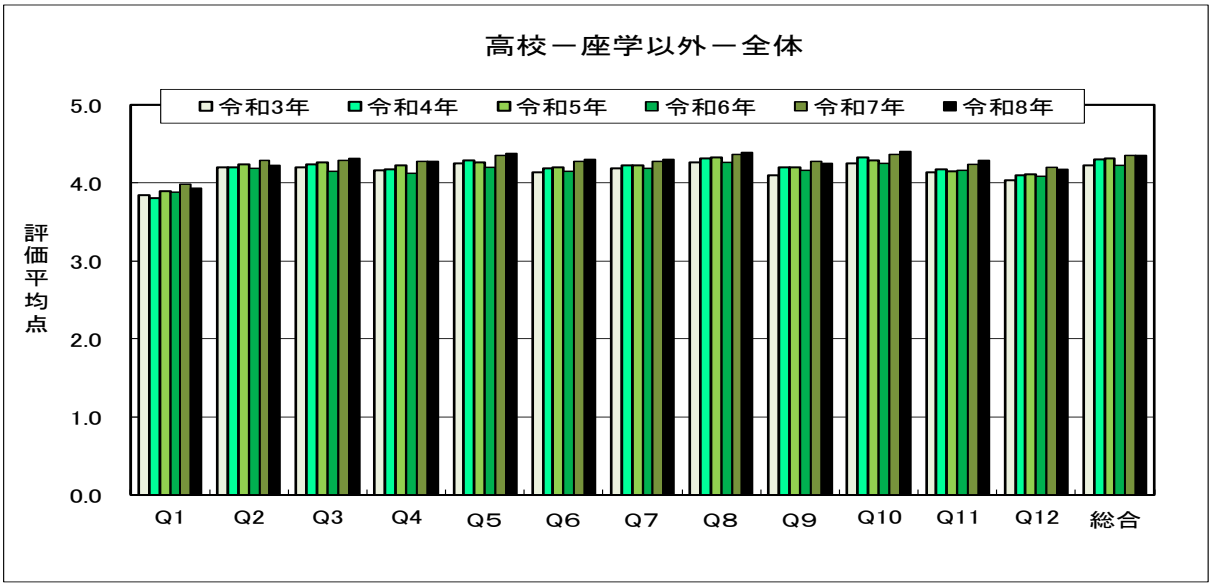
一方、高校の学年別で見たとき、1 年（4.14）が 2 年（4.09）、3 年（4.09）に比べて評価点が高くなっており、また、教科別に見ると、保健(4.32)、地歴公民（4.25）、家庭(4.17)、英語（4.15）が全体の評価点（4.11）を上回っている。中学と高校の評価結果を見ると、学年別及び教科別において全体的に中学が高校より高いが、教科別に見たときは年次的に変化が見られる学年及び教科もあることから、この点については、他の評価項目との関連含めて精査を図って行く必要がある。

令和3-4-5-6-7-8年度
座学以外科目全体に対するアンケート結果

座学以外科目に対する質問項目

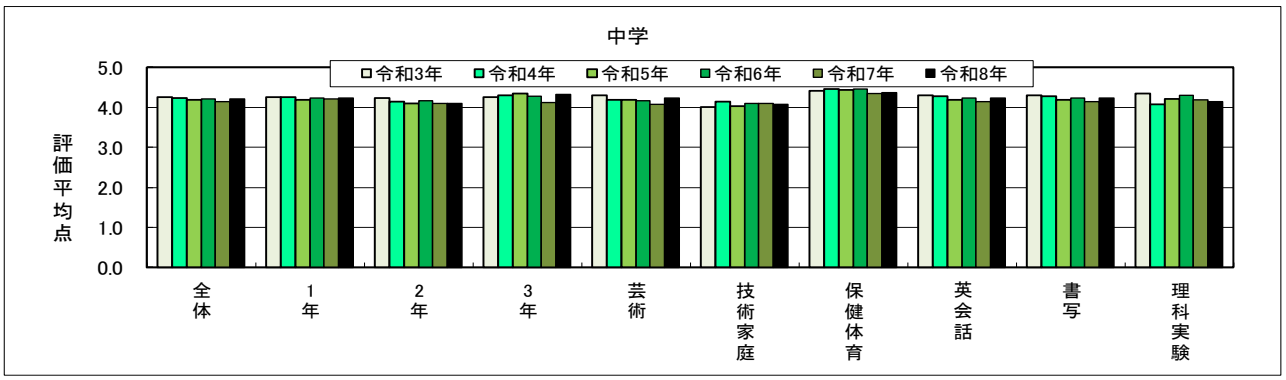
質問項目		
授業への取組	Q1	この科目は、自分は得意(好き)だと思う。
	Q2	この科目の授業に積極的に参加した。
授業内容・方法	Q3	話し方は、明瞭で聞き取りやすかった。
	Q4	授業の内容はよく理解できた。
	Q5	手本などを適切に示してくれたので、分かりやすかった。
	Q6	さまざまな授業の工夫をしてくれたので、理解に役立った。
	Q7	生徒の質問に良く答えてくれた。
	Q8	授業は十分な準備と熱意を持って行われた。
	Q9	授業に支障を与えるような生徒の言動に対して適切な注意を与えていた。
	Q10	実技について技術・技法の説明が適切であった。
	Q11	成績の評価基準は、明確に示された。
	Q12	この授業を通じ、この科目に対する興味・関心が高まっている。
総合		総合的に見て充実した授業だった。

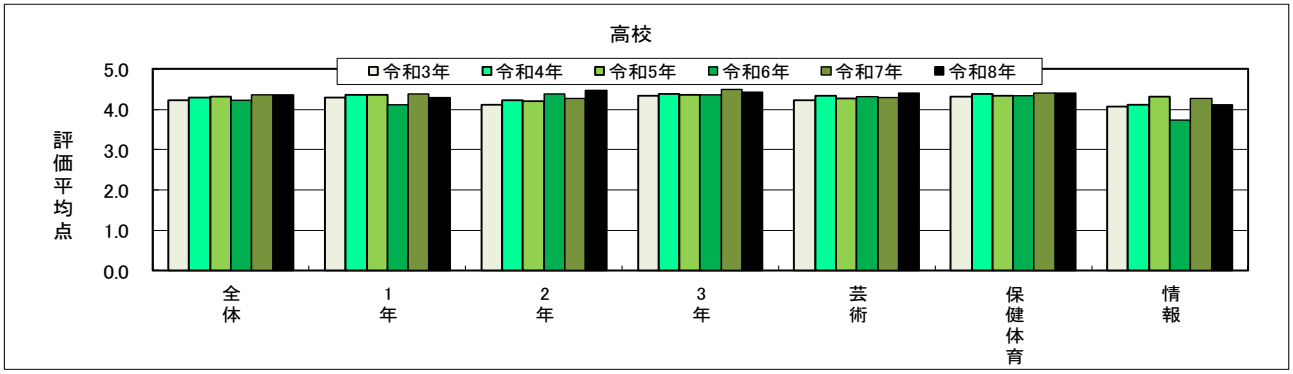




令和3-4-5-6-7-8年度
座学以外科目全体に対するアンケート結果

座学以外科目（全体、1年、2年、3年、芸術・技術家庭・保健体育・英会話。書写・理科実験・情報）





座学以外科目に対する授業評価アンケートは、前頁の質問項目に示されているように授業への取組み関係 2 項目、授業内容・方法関係 10 項目及び総合評価、併せて 13 項目で行った。また、各評価項目に対する評価は、5 段階評価（強くそう思う：5、そう思う：4、どちらとも言えない：3、そう思わない：2、まったくそう思わない：1）により行った。アンケートは、過去 6 年間の結果も併せて図示した。

前頁には、座学以外科目全体に対する中学・高校別に、各評価項目の結果を評価平均点で図示した。「この科目は、自分は得意だと思う」の項目に対して中学及び高校ともに大きな変化は見られないが、「この授業に積極的に参加した」の項目含めて、授業内容・方法に関する評価項目は中学及び高校ともに、ほとんどの項目でここ数年は 4.0 以上の値で推移している。また、総合評価項目としての「総合的に見て充実した授業だった」に対する評価は、中学で 4.20（昨年 4.24）、高校で 4.36（昨年 4.23）の値であることから、中学高校ともに大部分の生徒がそれぞれ授業に満足している結果が窺える。

中学を学年別で見たとき、座学以外科目では 3 年（4.32）が 1 年（4.23）及び 2 年（4.09）より高くなっており、また、教科別で見ると保健体育（4.36）、英会話（4.24）、芸術（4.23）が全体の評価点(4.20)より上回っている。

一方、高校の学年別で見たとき、2 年（4.47）が 1 年（4.29）及び 3 年（4.43）に比べて評価点が高くなっており、また、教科別に見ると、保健体育（4.41）、芸術（4.40）が全体の評価点(4.36)を上回っている。中学と高校の評価結果を見ると、全体的には高校が中学に比べて高いが、学年別及び教科別に見たときは年次的な変化が見られる学年及び教科もあることから、この点については、他の評価項目との関連含めて精査を図って行く必要がある。